

戦争をししない装置

元官房副長官 齋藤 勁さん(67)

憲法を考える

2013 参院選

▶▶ 2

——齋藤さんは、1 教育を受けて就職し、987年に横浜市議となり、昨年米の衆院選まで、山梨1区への出馬を最後に政界を引退するまで四半世紀、政治家として活動した。母子家庭で育ち、中卒で就職。定時制高校、夜間大学を出た経歴を持つ。

生い立ちのせいか、自分が憲法の恩恵を享受してきたと強く思います。憲法とは「国民主権」「平和主義」「基本的人権の尊重」。これらの基本理念があるからこそ、私は社会から排斥されることなく生きてこれたのだと強く感じています。

憲法が「平和主義」「基本的人権の尊重」を公明の3党で「税と社会保障の一体改革」に合意したのは、財政を

「お上の押しつけ」NO

立て直すときに、社会保障を維持するためだったはず。しかし、安倍政権はまず、生活保護費の削減を打ち出した。これは生存権をうたう現憲法25条を無視した行為です。

——終戦の年に生まれ、戦後復興とともに育った齋藤さんの平和への思いは強い。

戦争では、人が人の命令で駆り出されて誰かを殺しに行ったり、殺されたりするんです。それが二度とないように定めたのが憲法だと思っています。9条だけであって、教育を受けさせる義務や、法の下の平等といった概念は、どれも最終的には人々が平和に暮らすことへとつながります。

沖繩の基地問題に裏取り粗んで来ましたが、沖繩は琉球の頃から常に独立性を強いられ、平和への希求がとて強い。だから沖繩

沖繩の基地問題に裏取り粗んで来ましたが、沖繩は琉球の頃から常に独立性を強いられ、平和への希求がとて強い。だから沖繩

沖繩の基地問題に裏取り粗んで来ましたが、沖繩は琉球の頃から常に独立性を強いられ、平和への希求がとて強い。だから沖繩

沖繩の基地問題に裏取り粗んで来ましたが、沖繩は琉球の頃から常に独立性を強いられ、平和への希求がとて強い。だから沖繩



さいとう・つよし 1945年、横浜市生まれ。中卒卒業後に同市役所入り。同市議を経て95年参院選で初当選し、労働問題や沖繩の米軍基地問題に取り組み。民主党・野田政権が発足した2001年、官房副長官に就任。沖繩との交渉の国際窓口となった。昨年米の衆院選に山梨1区から出馬して落選。政界を引退し、現在は法政大学大学院で教壇に立つを務める。

【聞き手・斎藤 勁】「お上」から言われたことをただ聞いていただけではいけません。

【聞き手・斎藤 勁】「お上」から

二つづく